

にっ たら
新田 ちょうじろう
長次郎 (1857~1936)



学校創立者。実業家。温泉郡山西村(現、松山市)出身。大阪に出て当時最先端の産業だった皮革業を営む工場に勤めるが、その後、独立して製革業を興した。長次郎の工場が作る製品は安価で高品質だったため、事業は順調に伸びて成功した。明治21(1888)年、革製品の品質が見込まれ、大手紡績会社からイギリス製紡績機械の工業用ベルトを作る仕事の依頼があり、工業用ベルトの国内生産に初めて成功した。

一方、大阪で勤労少年のために小学校を私費で設立し、大正12(1923)年、当時松山市長を務めていた加藤恒忠(号：拓川、正岡子規の叔父)からの依頼で、松山に日本で3番目となる私立高等商業学校(現、松山大学)の創立にもかかわるなど、教育の振興にも力を注いだ。

また、大阪における工業人の集まりである大阪工業会の設立にも尽力した。現在でも、松山大学の同窓会は、長次郎が温山と号したことから、「温山会」と呼ばれている。

略歴

安政4(1857)年5月29日	温泉郡山西村に生まれる。
明治10(1877)年	上阪。藤田組製革所入所
明治13(1880)年	藤田組の事業縮小のため、同所をやめる。
明治15(1882)年	大倉組製革所に入所
明治18(1885)年	独立して製革工場を創業
明治21(1888)年	初めての工業用ベルト製造。大阪紡績株式会社で新田組のベルトを採用
明治24(1891)年	織機用ピッカーの製造開始
明治38(1905)年	呉海軍工廠の高速度鋼切断用ベルトを製作
明治44(1911)年	我が国初のタンニンエキスの製造
大正3(1914)年	大阪工業会設立
大正8(1919)年	ベニヤ板の製造を開始
大正12(1923)年	松山高等商業学校を創立
昭和11(1936)年7月17日	80歳で永眠

〈関連図書〉

- ・新田長次郎『回顧七十有七年』 新田帯革製造所 1935年
- ・新田帯革製造所『懐古写真帖』 新田帯革製造所 1938年
- ・ニッタ株式会社『ニッタ株式会社百年史』 百年史編纂委員会 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・西尾典祐『至誠 評伝・新田長次郎』 中日出版社 1997年
- ・『県民メモリアルホール人物探訪 第3集』 愛媛県生涯学習センター 1999年
- ・青山淳平『明治の空 至誠の人新田長次郎』 燃焼社 2009年

〈主な収蔵資料〉…(P197, 19~20)

〈ゆかりのある場所〉…(P272, 33)

〈関連施設〉…温山会館

〒790-8578 愛媛県松山市文京町4-2 松山大学内 TEL:089-926-7141

大阪企業家ミュージアム

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町1-4--5 大阪産業創造館地下1階

TEL:06-4964-7601